

開発研究

佐藤 仁
(東京大学東洋文化研究所)
satoj@ioc.u-tokyo.ac.jp

“Far better an approximate answer to the right question, which is often vague, than an exact answer to the wrong question, which can always be made precise.”

-John Tukey-

【授業の目的とテーマ】

この授業では次の3つのことを目指す。

- 1) 特定の方法論的伝統に引きずられることなく、開発現象そのものを多角的に捉えられるようになること。
- 2) 違った在り方への問題提起(現状批判)や建設的な行動オプションを引き出すために、(これまで思いつかなかったような)幅広い問いを投げかけられるようになること。
- 3) 「古典」と呼ばれる文献を中心に、良質な議論に多く触れることで「読む筋力」を鍛えつつ、開発分野の面白さと奥深さを垣間見ること。

ここで扱うテーマは大きく下の3つに分けられる。視点のとり方や文献の選定はオーソドックスではないが、開発という現象を読み解く上でのツボを豊富に含む文献を集めている。

● 開発／発展の見方

「開発はどうあるべきか」を前のめりで議論する前に、「開発はどうあったのか」を冷静に咀嚼したい。長い目でみると、開発／発展とは、分業の進展に伴う所得の増大であった。それは農村が都市に変貌していくことと同義であった。開発とは、生産や管理になじむ「規格化」や特定の規律(ディシプリン)の徹底に他ならないという政治的な見方もある。この単元では分業や依存をキーワードにしなが、開発現象の底流を確認する。

● 開発の日常

開発と呼ばれる社会変化の大部分は、援助やプロジェクトと呼ばれる非日常から作られるものではなく、国家や市場との仲介者として訪れる仲買人とのやりとりから生じる日常的な関係性の中で構成されている。ところが、開発研究の大部分は、この「日常」に光を当ててこなかった。「国家」とは、そもそも何なのか。人々は国家とどう対峙してきたのか。開発の日常に光を当てながら、その広がりを見たい。

● 開発(援助)の意図と結果

開発とは意図的な社会変化である。とくに貧困の軽減は、開発／発展の重要な基準となってきた。しかし、開発の結果は意図の狙いどおりになるとは限らない。むしろ、結果は思わぬ形をとることのほうが多い。この単元は、再分配の手段としての援助をめぐる近年の論争から始め、ODAの理想と現実、さらには開発にともなう「意図せざる結果」を検討して「現象としての開発援助」理解を一段深いレベルにもっていく。

ここで扱う個々のテーマは、どれ一つとっても本が何冊も存在するほどの「大きな問題群」であり、半年でカバーできる領域は非常に限られている。だが、(もっともな理由で) 狭く定義された論文課題に取り組む前に、あるいは、実務者として目先の仕事に追われる前に、こうした大きな問題を大局的に考えておくことは大切である。自分で考える足腰の強さは、ここぞという場面で力を発揮するに違いない。

【授業の進め方】

- (1) 授業の日程は、水曜日 2 限 (9/30、10/7、10/14、10/21、10/28、11/4、11/11) の 7 回および金曜日 2 限 (9/25、10/2、10/9、10/23、10/30、11/6、11/13) の 7 回である。なお、新型コロナウイルスの感染状況を踏まえ、オンライン実施とする。
- (2) 単元毎に、それを扱う意義や文献の背景について佐藤が解説する。開発に関する、その時々ホットトピックについて短い講義をすることもある。
- (3) 初回を除く各回に「担当者 (ファシリテーター)」1~2 名を募る。担当者は、課題文献を読み、少なくとも次の 3 点について自分の考えを報告する。(i) 文献の基本的な主張や論点は何か。(ii) この文献は読者が知らない何を教えてくれた文献か (特に驚いたことは何か)、(iii) 文献を読んで分からなかったこと (分からなくなったこと)、みんなで議論したいことを 2~3 点に絞って示す。レジュメはスライド 4 枚以内 (注)とし、文字を並べるだけでなく概念図の作成を奨励する。(* 初回のレジュメがその後の基準となるので、初回のみ授業の前までに必ず TA へレジュメを提出し、フィードバックを得ること。その後の各回についても、TA への相談やフィードバックの依頼は随時受け付ける。但し、発表までに十分な時間を確保すること。)
- (4) 全員で議論。自分が準備してきたアイデアをテストしよう。自分の考えが他の人の意見で相対化されることを通じて深まるのを感じよう。
- (5) 残りの 10-15 分を使って、佐藤がその日のポイントをまとめる。

(注) 担当者が議論のために提示する論点は文献の内容に則したものでなくてはならない (わかり易い方法は、文献中のキーセンテンスをレジュメに抜書きすること)。課題文献を読んでこなくても容易に議論に参加できるような問いを示さないような工夫をすること。また、複数の文献を担当する場合は、担当者があらかじめ相談して、論点を整理してから示すのが望ましい。なお、文献はその単元の争点をあぶり出すために、互いに対峙する性格のものを並べているが、必ずしも「対立」しているわけではない。論点の抽出方法は報告者に任されている。最後の総合討論を担当する人は、授業中の議論のメモを取り、自分なりに論点整理して討論のファシリテーターを勤めてもらう。

【課題と成績評価の仕方】

(1) 最終成績は、学期中に2回提出の義務がある「メモ」が3割、平常時の授業参加が3割、報告者としての議論の喚起が2割、最終レポートが2割の割合でつけられる。「授業参加」とは、人の話を聞くことではなく、人の話に「主体的に反応すること」を指す。これは発言の量と質によって評価される。なお、教室でのプロセスを重視する授業の性質から、合計3回以上欠席したものには「優」はつかない。

(2) 学期中にこなしてもらった課題は下記の通りである。

- ・ 開始課題

2回目(9月30日)の授業までに「開発/発展とは何か」に関する1ページのメモをメールでTAまで提出。自分自身の考えを簡潔に述べる。

- ・ 中間課題

自分が発表するときを除いて2回分の単元を選び、各々1ページメモ(主要な論点の列挙と批判・考察をまとめたもの)を作成し、そのテーマを扱う回の直前(授業前日の21時)までにTAの柳谷君にメールで提出する。このメモはTAによってランダムにクラスの仲間(採点担当者)に振り分けられ、採点担当者は次の基準で採点して翌週の授業時にTA経由で本人に返却する。1. 文献の理解、2. 論旨の明快さ、3. 考察の独自性(各5点の15点満点)。なお、採点者は点数をつけるのが本来の仕事ではなく、執筆者が次回によりよいメモをかけるように改善のための具体的な助言をすることが求められる。メモ提出の翌週の授業には、時間の猶予に応じて、話題に上らなかったものの、重要であると考えられる論点の紹介を行う。

- ・ 最終課題

1) 授業の開始時点で「開発/発展」についてもっていたイメージが、授業終了時点から省みてどのように変化したか、しなかったか。「開発/発展」に対する見方はどのように変化したか、しなかったか。その理由を授業内容と関係づけながら考察しなさい。分量はA4で1ページ程度。

2) 授業の内容に即した小レポートの提出。内容は追って指示する。

(3) 課題文献は、授業の進行に応じて一部変更することがある。

【授業の内容】

0. 開発研究のヴィジョン (9.25)

I 開発／発展(development) の見方

1. 「開発」を構成する諸要素 (9.30)

課題文献

- ・ エイリッヒ・ショウルマン『パパラギ』（ソフトバンク文庫） 【購入】

参考文献

- ・ 福沢諭吉『文明論之概略』岩波文庫。
- ・ 久米邦武『米欧回覧実記』岩波文庫。
- ・ リリエンソール『TVA—民主主義は前進する』岩波書店。

2. 開発と分業：あるいは社会の富／危険が分配される仕組みについて (10.2)

課題文献

- ・ アダム・スミス『諸国民の富』（岩波文庫）第一章「分業について」, pp.23-50.
- ・ ウルリヒ・ベック『危険社会』第一章「富の分配と危険の分配の論理について」, pp.23-76.

参考文献

- ・ Lewis, A. 1954. “Economic Development with Unlimited Supplies of Labor,” *The Manchester School of Economic and Social Studies* 22(2), pp.139-191
- ・ Hirschman, A. 1992. “Linkages in Economic Development,” in *Rival Views of Market Society*. Harvard University Press, pp.56-76.
- ・ 中岡哲郎『技術を考える 13 章』所収の「工程」について
- ・ マルクス『資本論』第 13 章その他の分業に関する諸論考。

3. 欲望と開発 (10.7)

課題文献

- ・ Schumacher. E. F. 1974. *Small is Beautiful: A Study of Economics as if People Mattered*. London: Abacus Books (邦訳『スモール・イズ・ビューティフル』第一部すべてと第三部の第二章) 【購入】
- ・ マハトマ・ガンジー『真の独立への道—ヒンドゥースワラージ』（岩波文庫） pp.37-85.
- ・ 井上靖「聖者」『異域の人・幽鬼：井上靖歴史小説集』（文芸文庫）

参考文献

- ・ ジョアンナ・メーシー (1984) 『サルボダヤー—仏法と開発』 めこん.
- ・ トルストイ 『人にはどれだけの土地があるか』
- ・ 高木伸幸 (2014) 「井上靖『聖者』論—イシク・クル湖伝説と現代」『国文学攷』 (223), pp. 29-43.

4. 競争と依存 (10.9)

課題文献

- ・ 佐藤仁 (2017) 「競争史観から依存史観へ」『東洋文化』 97号, pp.197-218.
- ・ De Soto, H. (2000) *The Mystery of Capital*. 第三章

参考文献

- ・ クロポトキン (大杉栄訳) (2017) 『相互扶助論』 同時代社.
- ・ 長谷川英祐 2010 『働かないアリの意義がある』 メディアファクトリー新書.
- ・ Sen, A 1993. “On the Darwinian View of Progress,” *Population and Development Review* 19, pp. 123-137. Read also Guha (1994) “Comment on Sen”
- ・ 佐藤仁 2019 「反転をほどく」『反転する環境国家』 (名古屋大学出版会), 271-296.

II 開発の日常

5. 日本の開発経験 (10.14)

課題文献

- ・ 大牟羅良 『ものいわぬ農民』 (岩波新書、1958年) 【購入】
- ・ 『山びこ学校』 (岩波文庫) より一部の作文

参考文献

- ・ 北河賢三 「大牟羅良と『岩手の保健』—雑誌の編集と読者との関係を中心にして」年報『日本現代史』 第8号 「戦後日本の民衆意識と知識人」 (2002年)、pp.37-67.
- ・ 小熊英二 「『植民政策学』と開発援助」 稲賀繁美 (編) 『異文化理解の倫理にむけて』 (名古屋大学出版会、2000年)。
- ・ 佐藤寛 「戦後日本の生活改善運動」 『開発学を学ぶ人のために』 (世界思想社、2001年)。
- ・ 夏目漱石 「現代日本の開化」 『漱石文明論集』 (岩波文庫)
- ・ 宮本常一 『庶民の発見』 講談社学術文庫。

6. 国家と自由 (10.21)

課題文献

- ・ 井上ひさし 『吉里吉里人』 新潮文庫 (上・中・下)。(「上巻」は必須) 【購入】

参考文献

- Bates, Robert. 2001. *Violence and Prosperity*. Harvard University Press.
- ミシェル・フーコー『安全、領土、人口』筑摩書房。
- ジョージ=オーウェル『1984』早川書房。

7. 住民の組織化 (10.23)

課題文献

- 重富真一「農村住民による協同組織の形成と展開」(『タイ農村の開発と住民組織』第7章、アジア経済研究所、1996年)。
- Attwood, David. 1988. “Social and Political Pre-condition for Successful Co-operatives: The Co-operatives: The Co-operative Sugar Factories of Western India,” *Who Shares? Cooperatives and Rural Development*, D.W. Attwood & B.S. Baviskar, eds. Delhi: Oxford University Press.

参考文献

- Ostrom, E. 1990. *Governing the Commons*. Cambridge University Press.
- 佐藤寛編『援助と住民組織化』(アジア経済研究所、2004年)。

8. 開発を生きる (10.28)

課題文献

- ジェームズ・スコット『ゾミア—脱国家の世界史』(佐藤仁監訳、みすず書房) 第1章、6章、あとがき 【購入 or 貸借】

参考文献

- Scott, J. 1985. *Weapons of the Weak*. Yale University Press.
- 北條浩『村と入会の百年史』(御茶ノ水書房)。
- ジェームズ・スコット×佐藤仁「(インタビュー) 地域研究のアイデア—『ゾミア』出版に至るまで」『みすず』2013年10月号

9. モノと規律 (10.30)

課題文献

- ラングドン・ウィナー「人工物に政治はあるか」『鯨と原子炉』(紀伊国屋書店、2000年)。
- 橋本毅彦「蒲鉾から羊羹へ」『遅刻の誕生』(三元社、2001年)

参考文献

- Chu, Julie. (2014) “When infrastructures attack: The workings of disrepair in China,” *American Ethnologist* Vol.41, Issue. 2, pp. 351–367
- 細井和喜蔵『女工哀史』岩波文庫。
- 村嶋歸之『労働者の生活と「サボタージュ」』柏書房。

III 意図と結果

10. 「市場」と「計画」 (11.4)

課題文献

- ・ ポラニー, K. 『(新訳) 大転換』 (東洋経済新報社、2009年)。一部抜粋
- ・ ハイエク, F. 『社会における知識の効用』 『市場・知識・自由』 (ミネルヴァ書房、1986年)。
- ・ Easterly, W. 2008. “Hayek vs Development Experts” (ネットダウンロード)

参考文献

- ・ イースタリー, W. 『傲慢な援助』 (東洋経済新報社、2009年)。
- ・ Sen, A. “A man without a plan” ネット

11. 援助と分配 (11.6)

課題文献

- ・ 佐藤仁(2016)「緊急物資はなぜ届かないのか」『野蛮から生存の開発論』pp.153-177.
- ・ Hanlon, J. (2004) “Is it possible to just give money to the poor?” *Development and Change* Vol. 35, No. 2, pp. 375-383.
- ・ ジョイ・サン 「援助の新しい形」 TED-TALK (You Tube で見る)

参考文献

- ・ マルサス 『人口の原理』 (岩波文庫) 特に第2章と5章
- ・ Kelman, S. 1986). “A Case for In-Kind Transfers,” *Economics and Philosophy* 2, pp.55-73.
- ・ Sen, A. 1995. “The Political Economy of Targeting,” in van de Walle and Nead. *Public Spending and the Poor*. Johns Hopkins University Press.

12. 意図と結果 (11.11)

課題文献

- ・ Hirschman, A. 1967. “Principle of Hiding Hand,” in *Development Projects Observed*. Brookings (邦訳「目隠しの手」『開発計画の診断』所収)
- ・ M. フーコー 「違法行為と非行性」『監獄の誕生』第2章。

参考文献

- ・ 佐藤仁(2016)「想定外はなぜ繰り返されるのか」『野蛮から生存の開発論』pp.127-151.
- ・ 矢野修一(2004)『可能性の政治経済学：ハーシュマン研究序説』(法政大学出版局)。

13. 総合討論 (11.13)

- ・ 最も印象に残った文献は何か
- ・ 異なるトピックの間にどのような連関を見出したか
- ・ 授業全体を通じてどのようなメッセージを受け取ったか。
- ・ 開発のイメージは、履修前と履修後で、どのように変化したか。